

①

Q 富士見市の名前を全国区にするためPRしていく必要がある。考古学的にも貴重な水子貝塚公園や城跡の難波田城公園など、本市を代表する資源はある。基本構想策定の機会に本市が全国的に知れ渡るような施策を考えていただきたい。

A (市長)

本市は昭和47年に市制施行して平成24年で40周年を迎えます。この機会に現在、様々な取組みを検討しているところです。ご指摘のとおり、本市の貴重な資源、良い所などが活かされるよう、しっかりと取り組みたいと思います。

②

Q まず、歳入を増やす努力が見えてこない。それから、市に人を集める魅力を打ち出す必要がある。構想・計画には幅広く書かれているが、どこに力点を置いていくのか、何を目指すのか。その点について伺いたい。

A (市長)

バランスの取れたまちづくりをする必要があります。市内3駅とも西口の方が栄えています。今後、富士見川越道路が無料化したことや将来外環道まで延伸することなど、交通利便性が向上し、東口も大きく変わってきます。また、市役所前の産業誘致も再スタートできる地点まで戻りました。これらが動き出すことにより、様々な効果が波及して、富士見市も大きく変わってくると思います。確実にいい方向に富士見市は進んできています。農業を守る環境も十分にあります。農業、商業のバランスを図りながら、地産地消もできる、雇用も確保できる、都心に近い地域で、これだけの環境を持つ地域は他にないと思っています。「いつまでも富士見市に住んでいたい」、「富士見市に住んでみたい」と思っただけの人が今後、増えてくると思います。そうしたまちづくりを目指しています。

③

Q スクールガードリーダーをしており、市内の幾つかの小学校を担当している。安心できる通学路は、南畑小と針ヶ谷小のみである。基本構想には道路環境の整備とあるが、学校周辺だけでも道路環境の整備をお願いしたい。

A (建設部長)

市民を交通事故から守り、安全で快適に暮らせるまちにするため、歩道と車道の分離や現状幅員の中での歩車道一体型の道路築造、地域の特性を考慮した歩行空間の確保など、計画的な整備に努めていきたいと思っています。

④

Q 町会活動の支援とあるが、具体的にはこういった取り組みを想定しているのか。

A (市民生活部長)

町会への加入率が低下していると聞いています。市でも加入促進のパンフレット配布や他地域での加入率向上の成功例等も参考にしながら、町会と連携し、取り組んでいきたいと思います。

⑤

Q 第4次と第5次の構想を比較して、第1章に子どもに関する施策を位置付けたことに驚いている。こうした経緯、考えなどを伺いたい。

A (市長)

まちづくりは、産業面のバランスや、高齢者、若者、子どもといった世代がバランスよく暮らしていることも大切です。

本市も高齢化が進み、現在5人に1人が高齢者という状況です。その高齢者を支えるのは、我々次の世代です。そういったことから、第4次になかった「子ども」だけで括った大きな施策を第5次で位置付けさせていただいたところです。

⑥

Q 本市の地場産品は何があるのか。

A (まちづくり環境部長)

農業では梨、お米がありますが、商業でも、商工会が中心となって、一店逸品運動というパンフレットを作成して、よいものをPRしています。

A (市長)

地場産品は、なかなか広まらないという実態もありますが、ひとつの取組みとして、本年度から南畑産の梨を給食に使っています。子どもたちが「おいしい」と言ったことが、家庭に伝わり、それが販路の拡大につながることを期待しています。また、若手の和菓子職人が集まって、新しい富士見の和菓子を作ろうという動きが出ています。

⑦

Q 農村地帯は学力が下がるようなことが言われていた。産業・商業などは様々な制約があるが、教育に関しては努力すればできると思う。富士見市に住めば、優秀な子ども、希望に満ちた子どもが育つ、そんな教育が可能ではないかと考える。そのあたりのお考えを伺いたい。

A（教育長）

子ども教育委員会が子どもたちの学力を保証していくことは大きな責務であり、子どもたちの将来、市の将来を左右するものであると認識しています。

本市の子どもたちは、知識はあるがその知識を活用していく力に欠ける傾向があります。また、成績分布が従前は平均値に集中していましたが、近年では二極化してきています。

こうしたことから、施策として、基礎学力定着支援員や少人数指導、AETの配置などを進め、学力の充実に努めています。

⑧

Q 通学路が狭く危険である。しっかりとした整備をお願いしたい。

A（建設部長）

財源の問題もありますが、市民、子どもたちを交通事故から守る大きな課題なので、しっかりと取り組んでいきたいと思えます。また、ハード面のみでなく、交通指導員などのソフト面の取組みも充実していきたいと考えています。

⑨

Q 地域通貨を活かしたまちづくりについて、一時、機運が高まった時期があったかと思うが現在は絶ち消えている。これまでの経過が分かれば伺いたい。

A（総合政策部長）

市民文化会館を整備し、その活用方法を検討した際、地域通貨を使えないかという話がありました。市民大学でちょうど地域通貨の研究をしており、そこに市も加わる形であったと思います。具体的には、市が地域通貨を使うわけではなく、地域の中で地域通貨を広めていくということになります。本格的な取組みにまでは至りませんでした。

最近、県内でも地域通貨の動きが出ています。第5次基本構想の中では、新たに、地域活性化という施策を盛り込んでいます。元気のあるまちにするため、そのひとつの施策として、地域通貨も選択肢になりうると考えています。

⑩

Q 富士見川越道路が無料化され交通量が増えてきた。また浦和所沢バイパスもある。こうした中、市民の健康ということを考えた場合、この水谷地区は大きな道路に挟まれており、大気汚染などの問題も懸念される。健康という部分も視野に入れた取組みをお願いしたい。

A（まちづくり環境部長）

大気汚染については、市内の主要交差点で8月・12月に調査し、数値を把握していますが、いずれも基準値をクリアしています。

⑪

Q 水子の一部が市街化に再編入された後のまちづくりの問題だと思うが、住居表示の考えについて伺いたい。この地区は非常に住所が分かりづらい。5年10年の計画の中で考慮していただければと思う。

A（市民生活部長）

住所の表示については、水子の場合、土地の地番で大字水子〇〇番地ということになります。住居表示は、区画整理など行った場合に実施するケースが多いですが、貝塚の場合は、町名変更と住居表示を行っています。この場合にも議会の議決はもとより、その前提として住民の皆さんの合意形成が必要となってきます。

市としても地元住民の合意形成のもと、町名変更や住居表示などのご提案があれば、対応をしたいと考えています。

⑫

Q 本日までの説明会の参加者人数は。加えて、今回の資料は、どういう場合に市民に提供していただけるのか。私どもは現在コミュニティ大学を開校している。在籍数が約200名を超える。開校日は月2回、出席生徒が170名前後。これだけの計画を作成し、今後住民と一体となって、まちづくりを実現しようという意気込みがあるならば、そういった場所に積極的に出向いていくべきでは、と考える。

A（総合政策部長）

本日も含め、これまで6会場で実施しました。南畑公民館での参加者が一番多く、60名、総勢では180名程度です。資料の配布やコミュニティ大学での説明会の実施については、出前講座というものがありますので、ご活用いただければと思います。

⑬

Q 子どもの下校時間に合わせて放送をしているが、全国ではどの程度の団体が行っているのか。また、いつまで続けるつもりなのか、お伺いしたい。

A（学校担当教育部長）

全国あるいは県内他市の把握はしていませんが、近隣では三芳町、ふじみ野市が実施しています。また、いつまでというのは、現時点では具体的には決めていません。

⑭

Q お願いである。私は子どもたちとよく遊ぶ。まちづくりは人づくりで、人をつくるというのは、周りが接してできるものであり、一人では成長しない。ここに示されている基本目標の6項目、将来都市像、全てに当てはまるもので、「あいさつ」を実践して欲しい。特に大人の方が子どもに対して積極的に行っていただきたい。

A (学校担当教育部長)

ご指摘のとおり、人と人とのつながり、絆、和の基本は、あいさつから始まるものと思います。現在、市内全ての学校であいさつ運動を行っています。校内ではできるようになってきていますが、地域に出ていってのあいさつまではできていません。多くの方とあいさつができるように、これからも取り組んでいきたいと思っております。

⑮

Q 学校給食で地場産品が使われて食べているが、残念ながら子どもたちだけである。地域の人たちもそのことを知るために、一緒に食べる、あるいは、話し合いができるような場が必要である。そのうえで、地域の人にも応援しようとか、子どもたちに親しみを持つとか、一緒に遊んでみようとか、そういったことに波及していくと考えている。学校教育の中で、大人と子どものふれあいの場が入っていないことが少し寂しいような気がする。

A (学校担当教育部長)

地域子ども教室や学校応援団で地域の方々に大変お世話になっています。今後、こういった取組みを充実させて、地域の方々と触れ合う機会を増やしていこうと考えています。

また、給食について、地域の人を呼んで一緒に食べる取組みをしている小学校もあることから、今後は他の学校にも広げていきたいと考えています。

⑯

Q 各事業に目標数値が示され、非常に市民が理解しやすく、大変よい取組みである。一方で、どの部署が取り組むのかが記載されていない。

A (総合政策部長)

目標をしっかりとって事業に取り組んでいくために示しました。皆さんにもご協力をいただきながら進めていきたいと思っております。担当部署の表示については、本日お渡しした資料は、概要版という形で担当課名を割愛していますが、本冊には示していません。

⑱

Q 市内には駅が3つあり、道路も一定程度整備されているにもかかわらず、税収が少ない。もっと思い切ったまちづくりをしないと市は変わらない。その点についての考えを伺いたい。

A (市長)

昭和47年に市制施行して、人口が急激に増加していく中、市としてのまちづくりの根本的な考え方が少し足りなかったのかなと感じています。この間も、様々なまちづくり、活性化につながる産業面でのお話がありましたが、残念ながら全て絶ち消えになっています。これは、行政の説明責任が十分でなかったことが、ひとつの要因であったと認識しています。現在、市役所前の開発についても、同じことを繰り返さないように、ひとつひとつ実現に向けて取り組んでいるところです。

⑲

Q 10万都市となって、女性の割合も多いと思うが、執行部をみると女性が少ない。女性の地位向上からも、もっと多く起用してよいのでは。

A (市長)

現在、審議会等の女性の登用割合は、30%強と県内でも比較的高い水準です。庁内でも積極的に取り組んでいるところです。

⑳

Q 市民と行政が互いに考え、意見交換できる本日の会議に動員がかかっていることは残念である。もっと多くの市民が参加できるよう、チラシ配布やPRをもっと早い時期に実施していただきたい。

A (市長)

真摯に受け止め、しっかりと取り組んでいきたいと思えます。

㉑

Q 通学路に立つ先生のあいさつがすばらしい。子どもたちもしっかりあいさつするようになる。小学校の周りを見ると、あいさつを奨励する看板がある。大変よいことだと思う。

A (教育長)

地域の方に支えられて、学校教育が成り立っているということ、本日の会議に参加し、改めて実感しました。やはり、子どもたちの最大の環境は人ではないかと思えます。大人も子どもも、親も地域の人も一体となって、今後も子どもたちを見守って

いただければありがたいと思います。

②

Q 要望であるが、市内循環バスの路線について検討いただきたい。

A (建設部長)

ご指摘のとおり、市内循環バスは地域によって路線があるところと無いところがあります。様々な課題はありますが、高齢化など交通弱者が増えていく中、公共交通の確保に向け、多角的に研究し改善していく必要があると考えています。